



衣川 正作

『寛永通宝 (かんえいとうほう) 』

4月号で、『寛永通宝』の中に磁石につくものがある事を書きましたが、入手した銭がたまたま着いたのか？不安になり、インターネットでコイン屋さんから裏面に波目がある100ヶ紐でつないだものを買いました。磁石につかないもの13ヶ、磁石につくもの16ヶ、少し反応するもの71ヶでした。銅銭に見えるものが、なぜ磁石につくのか不思議でたまりません。そこでいつもお世話になっている兵庫県立工業技術センターに電話を入れ、品物を送るので分析して欲しいと依頼したところ、すぐに分析結果が送られてきました。磁石への反応が違った三種類の寛永通宝は、やはり材質が異なり、鉄分の含有量に差がありました。エックス線分析で、測定面が0.2mm角と小さいので、全体の分布は判明しません。分析結果は以下の表を参照してください。しかし、又疑問が湧いてきました。銅の合金の中に、どんな形で鉄が含まれるのだろうか？鉄と銅は混ざり合わないと思うのですが？

『夢通信』の4月号に『ビター文』の記事を書きましたが、間違いがありましたので、訂正させて頂きます。前回の寛永通宝の裏面には波目の文様が施されていました。これは四文銭で一文銭ではありません。明和5年(1768年)に江戸深川に銀座監督の下、銭座が設けられ鑄造され初め、その後各地で生産されました。

寛永通宝(かんえいとうほう)は、江戸時代を通じて広く流通した銭貨です。幕府が江戸橋場と近江坂本に銭座を設置。公鑄銭として製造を開始したのは寛永13年(1636年)、以来幕末まで230年間作られました。製造者、製造地、年代、材質、形状等々、色々なものがあります。これだけ調べても面白い報告書が出来るな、と思いました。

分析資料	あ	い	う
成分	WT %	成分	WT %
0	2.05	0	3.75
AL	0.59	As	4.53
Sn	3.66	AL	1.03
Cu	53.4	Fe	3.01
Pb	40.3	Cu	70.82
		Zn	16.86
磁石につかない		磁石に少しく	磁石につく

規定品位	明和5年 1768年	文政4年 1821年	安政4年 1857年
成分	WT %	WT %	WT %
Cu	68	75	65
Zn	24	15	15
Pb	8	10	20

上記 品位は
『ウィキペディア (Wikipedia) 』
の寛永通宝の項目から転載

測定装置	エネルギー分散エックス線分析装置
測定面積	□200μm
定量元素	主要ピーク元素のみ

※ 前処理として、アルミナ懸濁液で研磨。
※ 特定の視野および条件下で測定を行った。

元素記号
Cu : 銅 Zn : 亜鉛 Pb : 鉛
Fe : 鉄 As : ヒ素 Al : アルミ
Sn : スズ 0 : 酸素



あ 磁石につかない

い 少しく

う よくつく?

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!

「鉄のふしぎ博物館」開館
来て! 見て! ふれて! ふしぎ体感

鉄を見る目が変わりますよ。
ぜひお越しください。



見学にはご予約が必要です。申込書をメール又は FAX でお願ひします。
様式は以下にあります。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/museum/hushigi.doc>